

平成20年当社の主な取り組み

当社は、エネルギーセキュリティ問題や地球環境問題の重要性の高まりなど、今後大きく経営環境が変化する中においても「九州電力の思い」（ブランドメッセージ「ずっと先まで、明るくしたい。」）の実現を目指して、環境にやさしい電力・エネルギーを安定的にお届けし続けます。
平成20年の当社の主な出来事について、この「九州電力の思い」の実現に向けて私たちが挑戦しつづけている4つの項目に整理しました。

1 地球にやさしいエネルギーをいつまでも、しっかりと

環境保全と両立した電力を安定してお届けするために、資源調達の安定性・環境性・経済性の面で総合的に優れている原子力への取り組みを中心として、エネルギー利用の効率化、新エネルギー等の普及促進、信頼度の維持、新技術の開発などに取り組みます。

- **南オーストラリア州におけるウラン探査プロジェクトへの参画（5/26）**
燃料の安定調達のための取り組みの一環として、南オーストラリア州の初期探査段階のウラン鉱区における、ウラン探査プロジェクトに日豪ウラン資源開発を通じて参画。
- **玄海原子力発電所3号機のプルサーマルで使用するMOX燃料16体が完成（7/28）**
玄海原子力発電所3号機のプルサーマルで使用するMOX燃料（昨年10月より仏国のメロックス工場で製造開始）16体が完成し、日本への輸送開始前に必要な輸入燃料体検査申請（補正）を実施。
- **港発電所跡地でのメガソーラー開発決定（8/25）**
当社初となるメガソーラー（開発規模は太陽光発電では九州最大の3,000kW。CO₂排出抑制効果は年間約1,300トンの見込み）を福岡県大牟田市の港発電所跡地に開発することを決定。
- **長島風力発電所の営業運転開始（10/1）**
九州では最大規模の風力発電所である長島風力発電所（発電所出力は50,400kW。CO₂排出抑制効果は年間約40,000トンの見込み）が、10月1日に営業運転を開始。
- **九州本土における風力発電連系可能量を70万kWから100万kWへ拡大（11/18）**
平成18年度以降に運転を開始した風力発電所の出力の実測データに加えて、電力系統における周波数や需給面の影響を総合的に評価した結果、連系可能量拡大が可能との見通しが得られたことから、九州本土における連系可能量を70万kWから100万kWへ拡大。

2 「なるほど」と実感していただくために

ご家庭、学校、街角で、みなさまの暮らしを、ビル、工場、オフィスで、みなさまのお仕事を、より楽しく、より快適になるようお客さまのニーズに即したサービスを電気・エネルギーを中核に展開していきます。

- **「九州電力携帯メールサービス」を開始、停電情報の提供を充実（1/29）**
事前に会員登録いただいたお客さまの携帯電話へ非常災害時に停電情報などをメールでお知らせする電力会社では初めての取り組み。
停電情報以外に緊急時のお知らせや、当社イベント、省エネなどのお役立ち情報もお届け。
- **「省エネ快適ライフ」の推進により8万t-CO₂/年の削減目標（3/28）**
地球環境問題、資源エネルギー問題への関心や危機意識の急速な高まりを踏まえ、お客さまにムリなくムダなく電気を上手に使っていただき、快適で環境にやさしい生活をお送りいただく「省エネ快適ライフ」をおすすめすることで、8万t-CO₂/年を削減目標として設定。具体的には、省エネルギーの積極的PR及びコンサルティング、ヒートポンプ式空調やエコキュートの普及促進を実施。

3 九州とともに。そしてアジア、世界へ

快適で豊かな地域・社会の実現とその持続的な発展を目指し、事業活動や社会貢献活動を通じて、積極的に地域の発展に寄与していきます。
また、当社グループがもつ経営資源を有効活用し、海外におけるIPPやコンサルティングなどの事業に積極的に取り組んでいきます。

- **中国上海のガラス工場において省エネコンサルティング事業を開始（7/14）**
こあらす
中国上海高雅玻璃有限公司のガラス工場に対して、当社が実施した省エネ診断による改修提案に基づき、中国の現地法人を実施主体としたESCO事業の開始。
- **シンガポール最大の電力会社「セノコ・パワー」の株式取得（9/5）**
丸紅、関西電力、国際協力銀行、GDFスエズとコンソーシアム（共同事業体）を組み、シンガポール最大の電力会社である「セノコ・パワー・リミテッド社」の100%株式売却に関する国際入札を落札。
- **中国紡織業界の省エネ普及に向けた省エネ診断等に関する協力協定の締結（11/28）**
中国西安市の紡織工場と、省エネ改善の推進と紡織業界への省エネ普及を目指した技術協力協定を結び進めてきた省エネ診断等の取り組みが、中国紡織工業協会に高く評価され、紡織業界での更なる省エネ普及を目的に、中国のESCO事業会社、中国紡織工業協会の三者間で協力協定を締結。

4 語り合う中から、答えを見出し、行動を

ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションをよりいっそう充実させ、当社の取り組みに対するご意見・ご要望を把握し、迅速かつ的確に事業活動へ反映させます。
また、企業価値向上の源泉は「人材」であることを基本に、一人ひとりがやりがい・働きがいをもって仕事ができる、働きやすい労働環境の整備に取り組んでいきます。

- **行動指針「自ら考え、行動する。」の制定（4/1）**
「九州電力の思い」の実現に向け、社員一人ひとりが日々の業務を行っていく際の心構えや姿勢について、社員参加のプロセスを通じて検討し制定。
「自ら考え、行動する。」とは、社員一人ひとりがあらゆる業務の中で、お客さま、地域の方々、職場の仲間、未来の世代のためになるかを、主体的に考え、行動するということ。
- **経営環境の変化等に対応するため組織の一部を改編（6/27）**
厳しさを増す国際エネルギー情勢への対応を図るため、資材燃料部から燃料業務を独立させ「燃料部」を設置。電力自由化や事業領域拡大などに伴う法的課題の多様化などを踏まえ、法務関係業務を総合的に扱い、コンプライアンス経営を推進するため、総務部内に「法務室」を設置。
会社法や金融商品取引法を受けた「内部統制整備のためのモニタリング機能の強化」に対応するため、経営管理部内に「内部監査室」を設置。
- **小丸川発電所展示館「ピノックパーク」の開館（7/18）**
小丸川発電所の必要性や揚水発電の仕組み、エネルギー・環境問題等へのご理解を深めていただくとともに、地域の方々に喜んでいただけることをコンセプトとした展示館を設置。